

KIIA 北名古屋市 国際交流協会会報

発行者 北名古屋市国際交流協会
Kitanagoya City International Association (KIIA)
〒481-8531 北名古屋市役所（西庁舎4階）
TEL 0568-22-1111(内線)2400

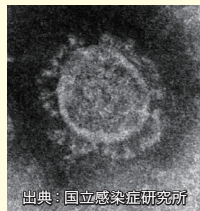
vol. **37**
2020. 7.

ウィズ・コロナを考える

【新型コロナウイルス】

このたびの、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的な大流行)は、

昨年12月に中国・武漢から始まり、3月には、ヨーロッパからアメリカに移り、今、ロシアやブラジルを襲っております。3～5週間で国境を越え、変異を繰り返して、病原性が高まっており、ますます、制御し難いウイルスと化しています。あっという間に、全世界に拡散し、感染者は1,000万人を越え、死者は50万人を突破し、その感染に勢いは衰えません。



出典：国立感染症研究所

このウイルスの感染は、飛沫感染と接触感染の2つとされています。飛沫感染は、感染者のくしゃみ、咳、つばなどと一緒にウイルスが、放出され、口や鼻から吸い込んで感染します。また、接触感染は、感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、回りのものに触れることで感染します。無症状の潜伏期間にもウイルスは放出されます。特に、症状が出る直前の1～2日間にウイルスの放出量が多いということです。そして、2週間程度で感染のリスクは無くなるとのことです。ウイルスは鼻腔・咽頭だけでなく、唾液や便にも含まれています。また、飛沫、接触からの感染だけでなく、エアロゾルのような形で長時間にわたって空中を浮遊し、周囲の器物に付着し、72時間も感染力を保つそうです。

【パンデミック】

感染症がパンデミックとなったのは、新型コロナウイルスが、初めてではありません。

100年前のスペイン風邪は、世界中で5億人が感染したとされ、これは当時の世界人口の4分の1程度に相当し、死者数は1,700万人から5,000万人と推計されています。当時、総人口約5,500万人だった日本でも、感染者数、約2,380万人、死者数約39万人とされています。

また、14世紀に起きたペストのパンデミックは、当時の世界人口4億5,000万人の22%にあたる1億人が死亡したと推計されています。

近年まで、ペストの感染は続いており、2004-2015年で、世界で56,734名が感染し、死者数は4,651名(死亡率8.2%)とのこと。人類は、細菌感染症であるペストを、まだ撲滅できていません。

新型コロナウイルスとの戦いは、長期戦を覚悟しなければなりません。

【終息はあるか】

この感染症を終息させるためには、治療薬ができるか、ワクチンができるか、国民の6割以上が感染する必要があるとされる集団免疫を確立できるか、それらの見通しが立つまでは、「人と人の接触を避ける」というのが、唯一の対策のようです。私たちは、辛くて厳しい現実と向き合っていかなければなりません。

4月に、わが国は、緊急事態宣言を発令しました。世界の常識では、感染症の封じ込めには、強制的なロック・ダウン(都市封鎖)が一般的ですが、わが国の対策の「自粛要請」レベルでは、抑え込みは難しいと、内外から厳しい批判を受けました。しかし、感染爆発を回避し、医療崩壊もなく、死者数も奇跡的に抑え込むことができました。米外交誌から、「奇妙な成功」と驚かれました。日本人の底力、民度や規律性の高さが、あらためて再評価されております。

しかし、このパンデミックの第2波の到来に対する懸念や危機感が強まっています。ウイルスや感染症の専門家の間では、第2波は確実にやってくるということが、半ば常識となっておりますが、この経験を活かすことができれば、わが国の自粛の手法で、この難局を乗り越えられると期待しています。

【人間を取り戻したい】

「人間は社会的動物である」とされ、この社会性は、他の動物には見られない、人間に特有の独特の自然本性であるとされております。社会的な存在であるためには、人と人との交流がすべての基本です。人は交流により、友をつくり、家族をつくり、地域をつくり、社会をつくり、国をつくり、世界をつくっております。しかし、新型コロナウイルスは、人と人の交流を遮断しております。新型コロナウイルスを乗り越えなければ人間の未来はありません。

感染防止に向けて、政府の専門家会議が提案した「換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面」を避けるという「3密」を「新しい生活様式」にしっかりと根付かせていくことが大切です。

協会は、テレワークを実施しました。オンライン飲み会も試行しました。物理的な距離をなくした、新しい交流ネットワークの構築も手ごたえを感じております。ソーシャル・ディスタンス(社会的距離)を確保したコミュニケーションも工夫しております。

人と人との接触を減らしながら、人と人との濃密なつながりをどう構築していくか。人と人との交流をどう進めるか。まだ、先行き不透明であります。が、「ウィズ・コロナ(新型コロナウイルスとの共生)」の時代を、しっかりと前を向いて進んでいきましょう。

「SDGs(エス・ディー・ジーズ)持続可能な開発目標」は、国連が提唱している。世界193か国が参加し、2030年に向けて、17のゴールをめざし、169のプロジェクトをターゲットとして取り組むものだ。世界が、力を合わせて貧困・教育・差別などをなくすことを目標とする運動である。様々な団体がこの活動に参加している。市国際交流協会もその団体の一つ。協会の作成したカラフルなポスターで目を惹くが、余りにも達成目標が多すぎて、残念ながら、一見して理解できるものではないのが残念。

近年、若い人が、貧困・教育・差別などについて国際的に声を大にしている。若い人とは思えない素晴らしい発言内容だと感じている。活動しても、国情によっては動かせないことが多い。だが、民間団体の方が動きやすさがあることも事実。また、友好提携している自治体の市民レベルで不足品のやりとりが行われたと心温まるニュースに触れることができたのも事実。

活動する方が増えればそれだけ運動のパワーが強くなる。「SDGs」が気になれば是非当協会の活動に参加して下さい。

私たちの
国際交流

何だ、これ！
SDGs

西春駅前 山田 建二

新型コロナウイルスが世界の国々を震撼させている。人的往来の激しい先進諸国から始まった。アメリカやヨーロッパでも多くの犠牲者がでた。医療設備・技術が優れている国でさえ右往左往。その後、当然発展途上国へと感染が広がる。医療設備や医師の不足、さらには衛生管理の問題がある国では、爆発的な被害が予想として紙面に出ている。

先進国と言われる国々でさえ、自国の感染を防ぐのに精一杯で、他国のことまで手が回らなかったのが実態ではなからうか。途上国へマスクや医薬品を送つたというニュースはなかったような気がする。わずかな医師の派遣はあったようだが、これが僕のニュース記事の見落としてあれば幸いと思うのだが。

令和2年度事業

令和2年度の重点事業

協会は多くの人と交流し世界に繋ぐ夢と希望を拡げるため、国際交流の場づくり、国際交流の担い手となる「人づくり」、国際交流を活用した「地域づくり」、「広報戦略拠点づくり」など、「市民が主役」となる草の根交流を推進し、北名古屋の国際交流拠点にふさわしい協会をめざす。

特に「市民が主役」となる広報をめざして、ウェブサイトに開設した「ファクトブック（北名古屋方式）」を活用して、「地域のこし」「地域づくり」「地域みがき」「地域じまん」を内外に発信していく。

令和2年度の事業計画

国際交流の場づくり

・第9回アジア太平洋フェスティバル アジア太平洋諸国との交流の場、食と文化の交流を通じて、国際理解を深めるため、市民手づくりのアイデア溢れる国際交流イベントを開催する。

・国際フェア 国際交流の場として、市内で開催されるフェスタなどイベントに出展し、国際交流コーナーを設置し、国際理解を深める。

令和元年度事業報告

国際交流の場づくり

・第8回アジア太平洋フェスティバル（インドネシア・フェスティバル・イン・北名古屋）インドネシアにスポットをあて、ナゴヤ・インドネシア文化協会と共同主催で実施。民族衣装ファッションショー、バリ舞踊、ジャカルタの人気DJによるインドネシア風ディスコを再現した。

・国際フェア 『ふれあいフェスタ2019』『第8回とらいあんぐるフェスタ』などイベントに出展した。

・国際交流子ども芸術教室 名古屋芸大の留学生と子どもたちとの交流の場として、芸術教室を開講した。

草の根交流海外派遣事業補助

・草の根交流プログラム（派遣） 北名古屋市と台湾台北市大同区、台南市との交流事業として、

・国際交流子ども芸術教室 名古屋芸大の留学生と子どもたちとの交流の場として、芸術教室を開講し、国際理解を深め、子どもたちの国際感覚を育てる。

国際交流の担い手となる人づくり

・草の根交流プログラム（派遣） 北名古屋市と友好的な交流先への市民グループ派遣を支援し、東アジアでの日本を取り巻く国際環境の理解を深める。

・草の根交流プログラム（受入） 海外の自治体や国際交流団体等を受け入れ、交流を深め、「市民が主役」となる草の根の国際交流の実現に努める。

・社会人日本語教室 外国籍市民を対象に基礎的な日本語の習得や日本社会での適応能力を高めるため、毎週、金曜日夜、市コミュニティセンターで開講する。

・子ども日本語教室 市内公立小中学校に通う外国籍市民の子女を対象に日本語の学習支援と日常生活に必要な日本語を習得ができるよう、在籍の小中学校への出張教室方式で毎週1回開講する。

・外国語講座 一般市民を対象に、韓国語・コーラス、英会話3コースの2か国語4コースを健康ドームで開講する。

国際交流を活用した地域づくり

・北名古屋地域ブランドプロジェクト イメージキャラクター「いっちゃん」を活用して、「北名古屋ブランド」を啓発キャンペーンを実施する。

・SDGs 持続可能な開発目標（プログラム） 地

域でのSDGsへの取り組みを啓発・普及するとともに、SDGs活動を地域づくりにつないでいく。

多文化共生社会づくりプログラム

・多文化共生社会づくりプログラム 外国籍市民とその家族を対象とした「外国籍市民とともに：北名古屋を語る」交流自治体：長野県大桑村を「知る」を実施する。

・国際理解プログラム 一般市民を対象に、国際理解を深めるための講演会や映画鑑賞会などを実施する。

・草の根交流海外派遣事業補助 草の根交流を促進し、地域の国際化につなぐため、アジア太平洋諸国等へ、北名古屋市民がグループ等で行う草の根交流海外派遣について、その経費の一部を予算の範囲内で補助する。①対象Ⅱ北名古屋市民②対象ⅢⅢ3グループ③対象Ⅳアジア太平洋諸国等④補助金Ⅰグループ当たり10万円を限度とする（渡航費は除く）。

・国際交流を活用した広報戦略拠点づくり 《市民が主役》となる広報の拠点づくりのプラットフォームを協会に整備する。広報戦略プランを実行する推進母体として、市民参加による委員会を立ち上げ、外国人や外国籍市民による広報市民ネットワークを構築する。

・ファクトブック（北名古屋方式）の活用 ウェブ上の「ファクトブック（北名古屋方式）」を活用して、「地域のこし」「地域づくり」「地域みがき」「地域じまん」を内外に発信。また、協会の活動や催事の紹介、各種講座の案内、会員募集、草の根の国際交流

草の根交流海外派遣事業補助

草の根交流を促進し、地域の国際化につなぐため、アジア太平洋諸国等へ、北名古屋市民がグループ等で行う草の根交流海外派遣について、その経費の一部を予算の範囲内で補助した。①3グループ（17名）②派遣Ⅱ韓国・米国グアム準州・ペトナム

国際交流を活用した広報拠点づくり

・広報戦略事業（北名古屋方式）の拠点づくり 《市民が主役》となる広報の拠点づくりのプラットフォームを整備。広報戦略プランを実行する推進母体として、市民参加による委員会を立ち上げ、外国人や外国籍市民による広報市民ネットワークの構築をめざした。

・北名古屋広報戦略プロジェクト（北名古屋方式） ウェブサイトに、「ファクトブック（北名古屋方式）」を整備。市が制作した外国人向けPR動画のコンテンツを最大活用して、北名古屋の文化・歴史・産業・暮らしを網羅した映像（部動画）を制作した。①「はじめまして 北名古屋です」（12分）②「と



令和元年度決算報告		単位:円
収入の部		
負担金(会費等)	581,000	
補助金・助成金	12,720,000	
諸収入	2,833,067	
繰入金	143,388	
繰越金	1,432,979	
計	17,710,434	
支出の部		
事務費	7,102,292	
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・旅費・交際費・需用費・備品購入費等)		
事業費	10,244,505	
(報償費・旅費・需用費・役員費・委託料・負担金補助金等)		
予備費	0	
計	17,346,797	

詳しくは協会までお問い合わせください

令和2年度 収支予算書		単位:円
収入の部		
負担金(会費等)	610,000	
補助金・助成金	10,200,000	
諸収入	1,471,000	
繰越金	363,000	
計	12,644,000	
支出の部		
事務費	8,056,000	
(報償費・職員手当等・共済費・賃金・旅費・交際費・需用費・備品購入費等)		
事業費	4,548,000	
(報償費・旅費・需用費・役員費・委託料・負担金補助金等)		
予備費	40,000	
計	12,644,000	

詳しくは協会までお問い合わせください

がいこくじんせいかつじょうほう

外国人生活情報サービス

を ご活用ください

ちいさ く がいこくせいしきみん みな ふんか しゅうかん げんこ

地域で暮らす外国籍市民の皆さんの文化・習慣・言語の違いから抱えている問題を、ともに考え、問題解決につなぐため、外国人生活相談サービスを行っています。〈予約制〉

がいこくじんせいかつそうだん おこな よやくせい

日 時 月～金曜日 午前9時～午後5時 場 所 北名古屋国際交流協会事務局

日本語学習支援ボランティア

を始めませんか

外国籍市民やその子女の基礎的な日本語の学習支援を行っています。日本語で学習支援していただきます。初めての方、大歓迎です。

社会人向け	小中学校児童・生徒向け
日 時 毎週金曜日 午後7時15分～8時45分	日 時 毎週1回
場 所 北名古屋コミュニティセンター	場 所 市内各小中学校

各種 申し込み お問い合わせ 等は下記までお願いします

北名古屋国際交流協会

TEL 0568(22)1111 内線 2400

FAX 0568(25)1800

〒481-8531 北名古屋西之保清水田15番地 北名古屋市役所西庁舎4階

Eメール info@kitanagoya-kiia.jp

ファクトブック <https://www.kitanagoya-factbook.jp>

フェイスブック <https://www.facebook.com/kitanagoyakiia>